



日本ウミガメ協議会会員

小林 茂夫

(こばやし・しげお)

シリーズ④

地域の日

いつの間にか、あれから八年



八年前 はるばる来たぜ
沖縄へ。とるるノ氣分で空港に
降りた。棲家を探すため一年
以上前から何度も降りたりてい
る空港だが、今日は格別だ。でも
この時、終の棲家とするつもりは
なかつた。

当時、「あなた沖縄病?」と聞
かれた。沖縄病の意味が良く分
からないので、「いえ糖尿病です」
と答えていたが、沖縄を選んだ理
由のつに、転地療法があつた。

八年後の今、女房の喘息はピタ
リと鳴りを静め、私の花粉症も
何処かへ飛んでしまつた。喘
息は、季節の変わり目に引く風

邪が引き金になることが多い。四
季でなく一季(?)の沖縄では、風
邪を引く回数が少ないからかも
知れない。花粉症は元となる杉
がここには無い。症状が出たくて
も出られないのだろう。一方糖尿
病は、転地療法で治る代物では
なかつた。トホホホ。

「わたし沖縄病です」と公言
する輩が定住目的で、毎年二万
人位訪れるという。でも住みつく
のは一割程度。ワンサカくる割に
は定住率が悪い。沖縄仮病だつた
のだろう。本当の沖縄病は掛かつ
たら治らない。私もここが終の棲
家となりそうだ。

八年前、来たばかりの頃、なん
と聞かれた。八年後の今、久々に
帰省した東京の雑踏の中、突き
飛ばされながら歩く自分がいた。
「まったく東京って、なんでこんな
に忙しい人間が多いんだ。狭い
日本そんなに急いでどこへ行く。
ああ、とうとう沖縄のヨシナ
ヨシナペースにはまつたか。

八年前、旅立つ私に「広い日本、
よりによって、どうして沖縄なん
だ?」と聞かれた。八年後の今、
その言葉はまだ聞があるだ
ろう。それまでは亀樂(きらく)
な稼業と洒落こんで、ウミガメを
いる水族館は少ない。八年後の今、
そのウミガメを守る活動をしてい
る。「ウミガメは満月のとき産卵

訪れた友に「あこがれの地で、何
やってんのかと思えば『み拾いか
よ』と言われる。『ちりだけでな
く犬や猫まで、なんでポイポイ捨
てるんだ。ワジワジー』。でもちり
拾いも八年続ければフラーを通
り越して、奇麗な人と思われた
らしい。沖縄総合事務局から表
彰された。イッペー、ニベーデービル。

八年前、沖縄戦を少々知る
みで歴史・文化はほとんど知ら
なかつた。観光雑誌に、農業神事
にはミルク神が登場すると書いて
あった。干ッ! 沖縄には牛乳の
神様がいるの? 八年後の今、訪
れる観光客に名所旧跡の案内を
している。それだけではない、恐れ
多くもウチナンチューを前に、沖
縄の自然神・遠祖先神の説明ま
でしている。本土の人達に忘れ去
られた神々が、ここでは人々の心
の中に宿っている。多くのヤマトン
チューは天照大神を祀る神社
神道の神しか知らない。でも「テ
ンヨウウツタインゾウて何サー?」
と聞かれたときは慌てた。しか
しミルク神を牛乳の神と間違え
た自分と大差はない。

八年前、ウミガメが爬虫類だと
は知らなかつた。本土にも水族
館は数多くある。でもウミガメが
いる水族館は少ない。八年後の今、
見守り続けることにしよう。

するんでしょう?」と聞かれる。残
念ながら月の満ち欠け、大潮・小
潮は関係ない。満月の産卵はサン
ゴだ。サンゴは自分の子孫をつで
てるんだ。ワジワジー。でもちり
拾いも八年続ければフラーを通
り越して、奇麗な人と思われた
らしい。沖縄総合事務局から表
彰された。イッペー、ニベーデービル。

九月。産卵はほとんど深夜に行
われる。昔ならオバケか泥棒しか
起きていないので、草木も眠る丑三う
時、声を殺し、ただひたすら産卵
を見守る。産卵周期は十四日。
例えば日に産卵したら十四日
後再び産卵する。一匹が一年に産
卵する回数は、四~五回。一度に
産む数は約百個。年間約五百個
の卵を産むが、生き残るのは三
千分の一ともそれ以上とも言わ
れる。一匹のウミガメが六年間卵
を生み続け、残る子孫はたったの
一匹だけということになる。自然
界の厳しさが伝わってくる。

でも沖縄では、「ウミガメは食
べるための水産資源で、保護の対
象動物ではなく、県水産課の話」
という。アキサミヨー。ま、食べづ
くされるまでは、まだ間があるだ
ろう。それまでは亀樂(きらく)
な稼業と洒落こんで、ウミガメを